

創世記 第1章 1節

「初めに、神が天と地を創造した。」

ここからすべてが始まった。ここが無ければすべてが無い、存在していないことになる。ここにすべての源があり、ここからすべてのことが起こっている。この真実を認める者は多くない。だからといって、どこからすべてが始まったと確証できる者がいないのも事実である。始まりを宣言されたお方がいるにもかかわらず、初めに無知な者が、初めを宣言されたお方を拒否するのは不思議としかいえない。

不思議というより、自己矛盾である。そうであるけど、自己矛盾の生活をしていることを自覚するほど、自分にとことん向き合っていないだろう。実際は矛盾の中に毎日生き、始まりも分からないまま生き、それは完成をわからないまままで今を生きるだけとなる。それでよいのだと生きる。でも、それでは具合が悪いから今を懸命に生きている。これも不思議な生活だ。

ところが、初めのことばを聞いた者には、青空の下、紅葉が映える風景を見て、ただ美しいだけでは終わらない。この美しさを見て、このすべての背後には、初めを始められたお方がいることを思うことができる。見ての美しさと同時に、人が考えられないほどの創造の業でこの美しさを演出しているお方を信じ仰ぐ。

2021年11月3日